
 医薬品インタビューフォーム

 日本病院薬剤師会の I F 記載要領（1998 年 9 月）に準拠して作成

消炎・血行促進剤

ヘパリンZ軟膏500単位/g**HEPARIN Z Ointment 500unit/g**

剤形	白色ないし類白色の半固形状・乳状軟膏
規格・含量	本剤は 1g 中ヘパリンナトリウムを 500 単位含有する。
一般名	和名：ヘパリンナトリウム 洋名：Heparin Sodium
製造・輸入承認年月日・ 薬価基準収載・ 発売年月日	製造承認年月日：2009年 7月 1日 薬価基準収載年月日：2009年 9月 25日 発売年月日：1965年 4月 20日
開発・製造・輸入・ 発売・販売会社名	製造販売元：ゼリア新薬工業株式会社
担当者の連絡先・ 電話番号	

本 I F は 2009 年 9 月改訂の添付文書の記載に基づき改訂した。

整理番号

--	--	--	--	--	--	--	--

ご自由にご利用下さい。

IF利用の手引きの概要 ー日本病院薬剤師会ー

1. 医薬品インタビューフォーム作成の経緯

当該医薬品について製薬企業の医薬情報担当者（以下、MR と略す）等にインタビューし、当該医薬品の評価を行うのに必要な医薬品情報源として使われていたインタビューフォームを、昭和 63 年日本病院薬剤師会（以下、日病薬と略す）学術第 2 小委員会が「医薬品インタビューフォーム」（以下、IF と略す）として位置付けを明確化し、その記載様式を策定した。そして、平成 10 年日病薬学術第 3 小委員会によって新たな位置付けと IF 記載要領が策定された。

2. IF とは

IF は「医療用医薬品添付文書等の情報を補完し、薬剤師等の医療従事者にとって日常業務に必要な医薬品の適正使用や評価のための情報あるいは薬剤情報提供の裏付けとなる情報等が集約された総合的な医薬品解説書として、日病薬が記載要領を策定し、薬剤師等のために当該医薬品の製薬企業に作成及び提供を依頼している学術資料」と位置付けられる。

しかし、薬事法の規制や製薬企業の機密等に関わる情報、製薬企業の製剤意図に反した情報及び薬剤師自らが評価・判断・提供すべき事項等は IF の記載事項とはならない。

3. IF の様式・作成・発行

規格は A4 判、横書きとし、原則として 9 ポイント以上の字体で記載し、印刷は一色刷りとする。表紙の記載項目は統一し、原則として製剤の投与経路別に作成する。IF は日病薬が策定した「IF 記載要領」に従って記載するが、本 IF 記載要領は、平成 11 年 1 月以降に承認された新医薬品から適用となり、既発売品については「IF 記載要領」による作成・提供が強制されるものではない。また、再審査及び再評価（臨床試験実施による）がなされた時点ならびに適応症の拡大等がなされ、記載内容が大きく異なる場合には IF が改訂・発行される。

4. IF の利用にあたって

IF 策定の原点を踏まえ、MR へのインタビュー、自己調査のデータを加えて IF の内容を充実させ、IF の利用性を高めておく必要がある。

MR へのインタビューで調査・補足する項目として、開発の経緯、製剤的特徴、薬理作用、臨床成績、非臨床成績等の項目が挙げられる。また、随時改訂される使用上の注意等に関する事項に関しては、当該医薬品の製薬企業の協力のもと、医療用医薬品添付文書、お知らせ文書、緊急安全性情報、Drug Safety Update（医薬品安全対策情報）等により薬剤師等自らが加筆、整備する。そのための参考として、表紙の下段に IF 作成の基となった添付文書の作成又は改訂年月を記載している。なお適正使用や安全確保の点から記載されている「臨床成績」や「主な外国での発売状況」に関する項目等には承認外の用法・用量、効能・効果が記載されている場合があり、その取扱いには慎重を要する。

目 次

I. 概要に関する項目	1	5. 代 謝	9
1. 開発の経緯	1	6. 排 泄	9
2. 製品の特徴及び有用性	1	7. 透析等による除去率	9
		8. その他	10
II. 名称に関する項目	2	VIII. 安全性(使用上の注意等)に関する項目	11
1. 販売名	2	1. 警告内容とその理由	11
2. 一般名	2	2. 禁忌内容とその理由	11
3. 構造式及び示性式	2	3. 効能・効果に関連する使用上の注意とその理由	11
4. 分子式及び分子量	2	4. 用法・用量に関連する使用上の注意とその理由	11
5. 化学名(命名法)	2	5. 慎重投与内容とその理由	11
6. 慣用名、別名、略名、記号番号	2	6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法	11
7. CAS登録番号	2	7. 相互作用	11
III. 有効成分に関する項目	3	8. 副作用	11
1. 有効成分の規制区分	3	9. 高齢者への使用に関する注意	12
2. 物理化学的性質	3	10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与	12
3. 有効成分の各種条件下における安定性	3	11. 小児等への投与	12
4. 有効成分の定量法	3	12. 臨床検査結果に及ぼす影響	12
5. 構造上関連のある化合物又は化合物群	3	13. 過量投与時	12
IV. 製剤に関する項目	4	14. 適用上及び薬剤交付時の注意(患者等に留意すべき必須事項等)	12
1. 剤 形	4	15. その他	12
2. 製剤の組成	4	IX. 非臨床試験に関する項目	13
3. 製剤の各種条件下における安定性	4	1. 一般薬理	13
4. 生物学的試験法	4	2. 毒 性	13
5. 製剤中の有効成分の確認試験	4	X. 取扱い上の注意等に関する項目	14
6. 製剤中の有効成分の定量法	4	1. 有効期間又は使用期限	14
7. 容器の材質	4	2. 貯法・保存条件	14
V. 治療に関する項目	5	3. 薬剤取扱い上の注意点	14
1. 効能又は効果	5	4. 承認条件	14
2. 用法及び用量	5	5. 包 装(形態、規格)	14
3. 臨床成績	5	6. 同一成分・同効薬	14
VI. 薬効薬理に関する項目	7	7. 国際誕生年月日	14
1. 薬理的に関連ある化合物又は化合物群	7	8. 製造・輸入承認年月日及び承認番号	14
2. 薬理作用	7	9. 薬価基準収載年月日	14
VII. 薬物動態に関する項目	8	10. 効能・効果追加、用法・用量変更追加等の年月日及びその内容	15
1. 血中濃度の推移・測定法	8	11. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容	15
2. 薬物速度論的パラメータ	8		
3. 吸 収	8		
4. 分 布	9		

12. 再審査期間	15
13. 長期投与の可否	15
14. 厚生労働省薬価基準収載の医薬品コード	15
15. 保険給付上の注意	15
XI. 文 献	16
1. 引用文献	16
XII. 参考資料	17
主な外国での発売状況	17
XIII. 備 考	18
その他の関連資料	18
文献請求先	18

I. 概要に関する項目

- | | |
|---------------|---|
| 1. 開発の経緯 | ヘパリンは、コンドロイチン硫酸、ヒアルロン酸と共に、高等動物の組織に広く分布し、特に筋肉、肝臓、胸腺、肺臓、脾臓、血液等に存在する酸性ムコ多糖類である。ヘパリンZ軟膏はヘパリンナトリウムを含有する消炎鎮痛作用および筋組織血行促進作用を期待される経皮外用剤である。 |
| 2. 製品の特徴及び有用性 | 酸性ムコ多糖類であるヘパリンナトリウムを有効成分とする外用剤である。
非ステロイド性鎮痛消炎剤とは異なる消炎作用を有する。 |

II. 名称に関する項目

1. 販売名

(1) 和 名

ヘパリンZ軟膏500単位/g

(2) 洋 名

HEPARIN Z Ointment 500unit/g

(3) 名称の由来

『ヘパリン』は有効成分としてヘパリンを含有していることを表し、『Z』は社名（ZERIA）に由来する。

2. 一般名

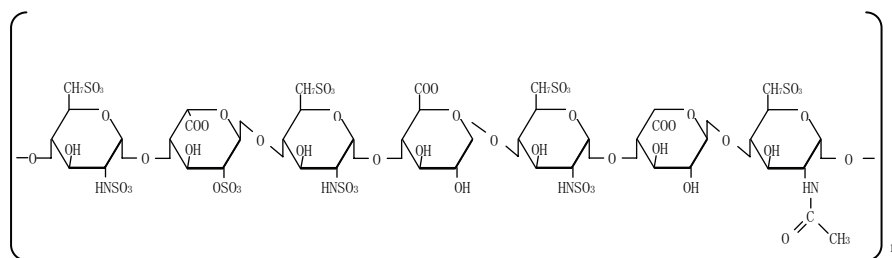
(1) 和 名

ヘパリンナトリウム

(2) 洋 名

Heparin Sodium

3. 構造式及び示性式



4. 分子式及び分子量

分子量：約5,000～20,000

5. 化学名（命名法）

該当しない

6. 慣用名、別名、略名、記号番号

慣用名：なし

別 名：なし

略 名：なし

記号番号：なし

7. CAS登録番号

9041-08-1

Ⅲ. 有効成分に関する項目

1. 有効成分の規制区分	該当しない
2. 物理化学的性質	
(1) 外観・性状（色、におい、味、結晶など）	白色～帯灰褐色の粉末又は粒で、においはない。
(2) 溶解性	水にやや溶けやすく、エタノール（95）又はジエチルエーテルに殆ど溶けない。
(3) 吸湿性	該当資料なし
(4) 融点（分解点）、沸点、凝固点	該当資料なし
(5) pKa、分配係数	該当資料なし
(6) その他の主な示性値	本品1.0gを水100mLに溶かした液のpHは6.0～8.0である。
3. 有効成分の各種条件下における安定性	該当資料なし
4. 有効成分の定量法	日本薬局方へパリンナトリウムの項に準ずる。
5. 構造上関連のある化合物又は化合物群	酸性ムコ多糖類（ヒアルロン酸、コンドロイチン酸など）

IV. 製剤に関する項目

1. 剤形	
(1) 投与経路	経皮
(2) 剤形の区別、規格及び性状	白色ないし類白色の半固形状、乳状軟膏
(3) 識別コード	なし
2. 製剤の組成	
(1) 有効成分(活性成分)の含量	本剤は1g中へパリンナトリウムを500単位含有する。
(2) 添加物	添加物として精製ラノリン、ミリスチン酸イソプロピル、セタノール、トリエタノールアミン、パラオキシ安息香酸ブチル、ステアリン酸、流動パラフィン、ソルビタンセスキオレイン酸エステルを含有する。
3. 製剤の各種条件下における安定性	苛酷試験及び室温保存において安定であった。
4. 生物学的試験法	該当資料なし
5. 製剤中の有効成分の確認試験	クロロホルムで抽出を行い油成分を除き乳化をこわした後、水層分を白金耳につけ炎色反応を行う時、ナトリウムの炎色反応を呈する。(へパリンナトリウム)
6. 製剤中の有効成分の定量法	クロロホルムで抽出後、水層を分取しさらにエーテルで抽出を行い水層を分取した後、濾過する。水酸化ナトリウムで中和後、標準溶液について日本薬局方へパリンナトリウムの定量法に準じて定量を行う。
7. 容器の材質	チューブ：アルミニウム キャップ：ポリプロピレン

V. 治療に関する項目

1. 効能又は効果	血行障害に基づく疼痛と炎症性疾患（注射後の硬結並びに疼痛） 外傷（打撲・捻挫・挫傷）後の腫脹・血腫・腱鞘炎・筋肉痛・関節炎 肥厚性癬痕・ケロイドの治療と予防 血栓性静脈炎（痔核を含む）
2. 用法及び用量	通常、症状により適量を1日1～数回塗擦、又はガーゼ等にのばして貼布する。
(1) 最大投与量	資料なし
(2) 小児用量	資料なし
(3) 高齢者用量	資料なし
(4) 臓器障害時（肝障害及び腎障害など）の投与量	資料なし
(5) 透析時の補正投与量	資料なし
(6) 特殊患者群に対する注意	血液の凝固時間を延長させる作用があるので、出血性血液疾患（血友病、血小板減少症、紫斑病等）の患者に対して投与しないこと。
(9) 特殊な投与方法	特になし
3. 臨床成績 ^{1)～4)}	
(1) 臨床効果	本剤の二重盲検比較試験を含む一般臨床試験成績（計21施設）は有効率51.9%（136/262）であった。ただし、やや有効以上は80.9%（212/262）であった。 副作用は305例中6例（1.97%）に毛細血管の拡張、湿疹・皮膚疹、そう痒感、刺激痛等が報告されている。特に重篤な副作用は発現していない。
(2) 臨床薬理試験：忍溶性試験	該当資料なし
(3) 探索的試験：用量反応探索試験	該当資料なし
(4) 検証的試験	
1) 無作為化平行用量反応試験	該当資料なし

V. 治療に関する項目

2) 比較試験	該当資料なし
3) 安全性試験	該当資料なし
4) 患者・病態別試験	該当資料なし
(5) 治療的使用	
1) 使用成績調査・特別調査・市販後臨床試験	該当資料なし
2) 承認条件として実施予定の内容又は実施した試験の概要	該当しない
(6) 治療的特徴	血小板の凝集又は沈着を抑制して血栓形成を妨げる作用を有しており、非ステロイド性鎮痛消炎剤とは異なった消炎作用を示す。

VI. 薬効薬理に関する項目

1. 薬理的に関連ある化合物又は化合物群	ヘパリノイド（ヘパリン類似物質）
2. 薬理作用	
(1) 作用部位・作用機序	<p>本剤は、塗布部位で局所性に作用する。</p> <p>(1) 血液凝固阻止作用 血漿中のプロトロンビンのトロンビンへの変化を阻止することによって血液凝固を阻止し⁵⁾、各種の血栓性静脈炎に効果を発揮する⁶⁾。</p> <p>(2) 血行促進作用 血液のみならず、組織液、リンパ液の循環を促進し、組織の新陳代謝を盛んにして各種血行障害に基づく疼痛・炎症性疾患に対して、効果を発揮する⁷⁾。</p> <p>(3) 抗炎症作用 フィブリノーゲンを含む炎症性浸出物の制御作用をもちフィブリンの組織沈着を防ぐことにより、関節炎、腱鞘炎などに対して抗炎症作用を発揮する⁸⁾。</p> <p>(4) 癬痕組織軟化作用 癬痕組織に対し加水作用と繊維素溶解作用を示し、水分に乏しい癬痕作用を膨潤、軟化させる⁹⁾。</p>
(2) 効力を裏付ける試験成績	<p>(1) 血液凝固阻止作用¹⁰⁾ ヘパリンは血漿中プロトロンビンのトロンビンへの変化を阻止することにより凝固時間を延長した。ヘパリノイドよりその活性は強い (in vitro)。</p> <p>(2) 溢血斑に対する作用¹¹⁾ ラットの皮膚に実験的溢血斑を作成し、その治癒経過を経時的に観察した結果、本剤塗擦により溢血斑を対照に比べ有意に消失させた。</p> <p>(3) 抗炎症作用^{12), 13)} 打撲足浮腫（ラット）、カラゲニン足浮腫（ラット）、紫外線紅斑（モルモット）などの急性炎症に対し本剤は明らかな抗炎症作用を示した（紫外線紅斑$p < 0.001$、その他$p < 0.01$）。またコットンペレット法による肉芽形成（ラットの亜急性炎症）に対しても本剤は明らかな抗炎症作用を示した。</p> <p>(4) 鎮痛作用¹³⁾ Randall-selitto法変法（ラット）による炎症性疼痛に対して本剤は疼痛閾値圧を約2.3倍上昇させ、明らかな鎮痛効果を示した。</p> <p>(5) 筋組織血行促進作用¹³⁾ 交叉熱電対法（ウサギ）により、基剤と本剤の血流変化差を求めると筋組織の血流が時間の経過とともに増大することが認められ本剤は筋組織血行促進作用を有することが示された。</p>

VII. 薬物動態に関する項目

1. 血中濃度の推移・測定法	
(1) 治療上有効な血中濃度	該当資料なし
(2) 最高血中濃度到達時間	除毛した白色家兎の背部に3g/kgを塗布したところ、塗布後6～8時間で血液凝固時間の最大延長が認められ、血中濃度が最高に達した ¹⁴⁾ 。
(3) 通常用量での血中濃度	該当資料なし
(4) 中毒症状を発現する血中濃度	該当資料なし
2. 薬物速度論的パラメータ	
(1) 吸収速度定数	該当資料なし
(2) バイオアベイラビリティ	該当資料なし
(3) 消失速度定数	該当資料なし
(4) クリアランス	該当資料なし
(5) 分布容積	該当資料なし
(6) 血漿蛋白結合率	該当資料なし
3. 吸収	
(1) 吸収部位、経路	動物の正常皮膚に軟膏塗布後、経時的に採血した血液の凝固時間を部分トロンボプラスチン時間、血漿プロトロンビン時間で測定したところ、延長が認められ経皮吸収されたことが示された。
(2) 吸収率	該当資料なし
(3) 腸肝循環	該当資料なし

VII. 薬物動態に関する項目

4. 分 布	
(1) 血液－脳関門通過性	資料なし
(2) 胎児への移行性	該当資料なし
(3) 乳汁中への移行性	該当資料なし
(4) 髄液への移行性	該当資料なし
(5) その他の組織への移行性	該当資料なし
5. 代 謝	
(1) 代謝部位及び代謝経路	該当資料なし
(2) 代謝に関与する酵素(CYP450等)の分子種	該当資料なし
(3) 初回通過効果の有無及びその割合	該当資料なし
(4) 代謝物の活性の有無及び比率	該当資料なし
(5) 活性代謝物の速度論的パラメータ	該当資料なし
6. 排 泄	
(1) 排泄部位	該当資料なし
(2) 排泄率	該当資料なし
(3) 排泄速度	該当資料なし
7. 透析等による除去率	
(1) 腹膜透析	該当資料なし
(2) 血液透析	該当資料なし

VII. 薬物動態に関する項目

(3) 直接血管灌流

該当資料なし

8. その他

<参考>

経皮吸収について凝血時間延長を指標として検討したところ、ラット、マウスで2.5時間後において対象に比べ有意に凝血時間の延長を示した¹¹⁾。

Ⅷ. 安全性(使用上の注意等)に関する項目

1. 警告内容とその理由	該当しない。
2. 禁忌内容とその理由	(次の場合に使用しないこと) (1) 出血性血液疾患(血友病、血小板減少症、紫斑病症) 〔出血傾向を増強するおそれがある〕 (2) 僅少な出血でも重大な結果を来すことが予想される場合 〔出血傾向を増強するおそれがある〕 (次の部位には使用しないこと) (3) 潰瘍、びらん面 〔潰瘍、びらんを悪化させるおそれがある〕 (4) 眼 〔異常な刺激痛をおこすおそれがある〕
3. 効能・効果に関連する使用上の注意とその理由	該当しない。
4. 用法・用量に関連する使用上の注意とその理由	該当しない。
5. 慎重投与内容とその理由	該当しない。
6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法	該当しない。
7. 相互作用	
(1) 併用禁忌とその理由	該当資料なし
(2) 併用注意とその理由	該当資料なし
8. 副作用	
(1) 副作用の概要	総症例305例中6例(1.97%)に副作用が報告された。その主なものは毛細血管の拡張、湿疹・皮膚疹、瘙痒感、刺激痛等であった。(承認時)以下の副作用が認められた場合には使用を中止すること。

VIII. 安全性(使用上の注意等)に関する項目

1) 重大な副作用と初期症状	該当資料なし				
2) その他の副作用	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>0.1~5%未満</td> </tr> <tr> <td>過 敏 症</td> <td>瘙痒、発赤、発疹</td> </tr> </table>		0.1~5%未満	過 敏 症	瘙痒、発赤、発疹
	0.1~5%未満				
過 敏 症	瘙痒、発赤、発疹				
(2) 項目別副作用発現頻度及び臨床検査値異常一覧	該当資料なし				
(3) 基礎疾患、合併症、重症度及び手術の有無等背景別の副作用発現頻度	該当資料なし				
(4) 薬物アレルギーに対する注意及び試験法	該当資料なし				
9. 高齢者への使用に関する注意	該当資料なし				
10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与	該当資料なし				
11. 小児等への投与	該当資料なし				
12. 臨床検査結果に及ぼす影響	該当資料なし				
13. 過量投与時	該当資料なし				
14. 適用上及び薬剤交付時の注意 (患者等に留意すべき必須事項等)	な し				
15. その他	な し				

Ⅸ. 非臨床試験に関する項目

1. 一般薬理

ヘパリンはアンチトロンビンⅢの存在下で、プロトロンビンからトロンビンへの変換やトロンビンの作用を阻害し、血液凝固機構の各種凝固因子に作用して、血液の凝固を阻止する。また、血小板凝集抑制や脂肪血の清浄化を示す。

2. 毒性

(1) 単回投与毒性試験¹⁵⁾

投与経路		経 口	皮 下	腹 腔 内
dd系 マウス	♂	> 5,000	> 2,500	> 2,500
	♀	> 5,000	> 2,500	> 2,500

(LD₅₀mg/kg)

(2) 反復投与毒性試験

資料なし

(3) 生殖発生毒性試験

資料なし

(4) その他の特殊毒性

資料なし

X. 取扱い上の注意等に関する項目

1. 有効期間又は使用期限	4年（使用期限を過ぎたものは使用しないこと） （室温における4年間の経時変化を検討したところ、性状、含量等何ら問題は見られなかった為4年間と設定した。）
2. 貯法・保存条件	室温保存（遮光した気密容器）
3. 薬剤取扱い上の注意点	特になし
4. 承認条件	特になし
5. 包装（形態、規格）	25g×10、25g×50
6. 同一成分・同効薬	同 効 薬：モビラート軟膏（マルホ） ヒルドイド軟膏（マルホ）
7. 国際誕生年月日	該当しない
8. 製造・輸入承認年月日 及び承認番号	承認年月日：2009年7月1日 承認番号：22100AMX01730000
9. 薬価基準収載年月日	2009年9月25日

X. 取扱い上の注意等に関する項目

10. 効能・効果追加、用法・用量変更追加等の年月日及びその内容	<p>効能・効果</p> <p>「血栓性疾患及び静脈瘤性症候群 表面性血栓症、血栓性静脈炎、静脈炎、静脈瘤の炎症過程、痔核、凍傷、褥瘡、火傷、脱疽、下腿潰瘍、放射線による潰瘍、その他慢性皮膚潰瘍。」より</p> <p>「血行障害に基づく疼痛と炎症性疾患（注射後の硬結並びに疼痛） 外傷（打撲、捻挫、挫傷）後の腫脹・血腫・腱鞘炎・筋肉痛・関節炎 肥厚性瘢痕・ケロイドの治療と予防 血栓性静脈炎（痔核を含む）」に変更。</p> <p>用法・用量</p> <p>「1. 軽症の場合又は炎症・疼痛部位が小範囲の場合には、1回0.5～1gを1日1～2回、患部を中心に出来るだけ広範囲に塗擦する。 2. 重症の場合又は炎症・疼痛部位が広範囲の場合には、1回4～6gを1日1～2回、患部を中心に出来るだけ広範囲に塗擦する。 3. 潰瘍を形成している場合、又は患部に直接塗擦出来ない場合は、ガーゼ等に延ばして患部に貼付し、更にその周辺の皮膚に塗擦する。」より</p> <p>「通常、症状により適量を1日1～数回塗擦またはガーゼ等にのばして貼付する。」に変更。</p> <p>1979年2月2日付の「医薬品再評価結果及びこれに基づく措置－その15」による。</p>
11. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容	同 上
12. 再審査期間	該当しない
13. 長期投与の可否	該当しない
14. 厚生労働省薬価基準収載の医薬品コード	3334700M1063
15. 保険給付上の注意	な し

XI. 文 献

1. 引用文献

- 1) 吉崎 聡 他：診療と新薬 12(1) 150～152、1975
- 2) 高須 靖夫 他：基礎と臨床 8(8) 4448～4451、1974
- 3) 西岡 五郎 他：皮膚 9(4) 601～611、1967
- 4) 吉崎 聡 他：診療と新薬 12(2) 365～371、1975
- 5) 山口 和政 他：基礎と臨床 23(12)、4395(1989)
- 6) 社内資料
- 7) 吉崎 聡：診療と新薬 12(1)、150(1975)
- 8) 鈴木 愉 他：新薬と臨床 37(6)、1121(1988)
- 9) 滝沢 隆雄 他：新薬と臨床 38(1)、97(1989)
- 10) Head P.A. et al : Acta Medica. Scandinavica, 172, fase, 3, 289～295, 1962
- 11) 伊藤真理子 他：社内資料
- 12) 永田 良一 他：新薬と臨床 37(5) 832～835、1988
- 13) 尾関 正之 他：基礎と臨床 22(8) 1973～1977、1988
- 14) 山内 英二 他：基礎と臨床 7(2) 231～233、1973
- 15) 松村 敦子 他：社内資料

「日本病院薬剤師会のIF様式に基づいて作成」

XII. 参考資料

主な外国での発売状況

該当しない

XIII. 備 考

その他の関連資料

特になし

文献請求先

ゼリア新薬工業株式会社 医薬マーケティング部
〒103-8351 東京都中央区日本橋小舟町10-11
TEL (03) 3661-0277

「日本病院薬剤師会のIF様式に基づいて作成」

